

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 868 junio 2023

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI Yasumasa

ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Sinhamatyo 2-4-18, Marugame-si, Kagawa-ken, 763-0063,
KOSAKA Kiyoyuki

ENHAVO

第110回日本エスペラント大会へのお誘い

..... 第110回日本エスペラント大会実行委員会 1-2

関西エスペラント大会(姫路)分科会追加 2

楽しい作文教室(142) 塚本 猛 3

連載:高齢者の... 1) 高齢者の講習は? 佐野 寛 4

Kurantaj Vortoj(超対称性粒子、ほか) 4

楽譜:電車ごっこ 井上 起 / 信時 潔 / 島谷 剛 5

kultura heredaĵo:百人一首(壬生忠岑) 島谷 剛 5

対訳:源氏物語第45帖 橋姫(16)..... 紫式部/belmonto 6-7

Kajero Libervola: Rakonto pri Veneno kaj Verko
..... TAKEMORI Hirotosi 8

クイズで知ろう正しい情報「エロシエンコ」..... 菊島 和子 9

Salono: 大規模言語モデル ChatGPT とエスペラント
..... Kelonio 9

夢十夜(6) 夏目 漱石 / 沖 恵明 10-11

La Movado: EPAの国際合宿、「長谷川テイル訪問記念の
碑」除幕式、京都観桜会、ほか 12-13

Vortkruca enigmo / 作文教室成績 14

Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより 15

編集ノート 16



10月21日(土)~22日(日)、川崎市

第110回日本エスペラント大会へのお誘い

第110回日本エスペラント大会実行委員会

第110回日本エスペラント大会

10月21日(土)~22日(日)、川崎市
大会テーマ:

「エスペラント」がいま夢見る世界は何か

Kion «Esperanto» nun revas por la mondo?

今年の第110回日本エスペラント大会は川崎市総合自治会館(神奈川県川崎市中原区)で開催されます。横浜、新横浜や品川から電車で11分という大変交通便利な武蔵小杉駅近くの新しい施設(ザ・サードアベニュー)内の4階フロアを貸切会場としています。

「大会を招致してくれる受け皿が見つからない」これは例年、日本エスペラント協会(JEI)大会組織部、関係者を悩ます大きな問題となっていました。そこで、従来ほぼ一極に集中していた大会実施の過剰な負担を分散させ、オンラインを活用した地方会での共同視聴、プログラムの発信を可能にする等、新たな大会のあり方を提起するのが今回の大会です。「川崎から変わろう!」を合言葉に実行委員会が昨年スタートしました。



川崎市総合自治会館(神奈川県川崎市中原区)

◆「プレ企画」や「オンライン文化祭」

大会日程は2日間となっていますが、「プレ企画」の実施で、中身の充実を目指しています。既に1月より隔月でオンラインの連続学習討論会が始まっています。第1回は「伝統的エスペラント運動の夢は今も有効か?」(報告者:北川久さん)。3月の第2回は「エスペラントは今なお『危険な言語』たり

うるか？ — ビーガンとアナキストの立場から」(報告者: 斉藤義典さん、黒薔薇アリザさん)が行われ、2時間の予定時間を過ぎても夜遅くまで活発な議論が続けられました。第3回は5月27日19時より「仮想(バーチャル)の時代に仮想(バーチャル)の言語を! エスペラントの新戦略?」(報告者: 白井裕之さん)が予定されています。7月、9月にも企画がありますので、詳しい内容は JEI のウェブサイトをごらんになってください。参加申し込みもウェブサイトから、報告は JEI の月刊誌 “La Revuo Orienta” で読むことができます。また「オンライン文化祭」の実施を計画しています。各地で個人またはグループで行っているエスペラントを使った活動、芸術、エンターテインメント、あるいはエスペラントに関する種々の活動、特技を事前に動画を送っていただき紹介いたします。

◆現在決まっている一般公開番組

<ウクライナ情勢に関するもの>

1) フィンランド、スウェーデンでジャーナリストとして活躍する Kalle Kniivilä さんのウクライナ情勢に関するオンライン講演。

Kalle さんは La Libera Folio の編集者としても著名なエスペランティストで、“Malamiko de Putin” ほかエスペラントの著作も既に数冊あります。

5月にはウクライナ関連の新著 “Lando kiu vekigis” (スウェーデン語では出版済み) が出版される予定です。動画での講演を配信し、その後 Zoom で、ご本人と意見交換するスタイルを予定しています。

2) 「モスクワ市民が見るウクライナ侵攻」といった視点で、木村護郎クリストフさんが Facebook で公開しているエスペラントによる「モスクワ便り」の要点を紹介するミニ講演。

<多文化共生、多言語・複言語教育に関するもの>

ジャーナリストのトニー・ラズロさんと、日本外国語教育推進機構 (JACTFL) 理事の境一三さん (獨協大学特任教授、慶應義塾大学名誉教授) による講演と対談。ヨーロッパでの言語体験や日本の実情を踏まえたお話をしていただき、エスペラントの役割を考えます。

<学習・会話講座関連>

公開エスペラント入門講座はポーランド出身の

Aleksandra Watanuki さんが担当します。

初級・中級者向けの会話を楽しむ番組には、スイスから来日予定のミレーユ・グロジャンさんや、日本在住の外国人エスペランティストの方々にご協力いただく予定です。

<トークショー>エスペランティストの女子高校生の身体や性への戸惑い、悩みをモチーフに、エスペラントを学ぶ高校生を登場させた『ポーチとノート』(講談社刊)の著者で講談社児童文学新人賞受賞作家のこまつあやこさんに、中高生に伝えたいことや、日常の中の「多文化共生」、エスペラントについて語っていただきます(最新刊『雨にシュクラン』にはアラビア書道やイスラム文化を背景に持つ高校生が登場します)。

▶ウェブページで各種申し込みを受け付けています。→ <https://jek.jei.or.jp/ja/110hejmo-ja/>

「グループ参加」、「分科会開催」、「ブース出展」、「企画提案」、「オンライン文化祭」のお申し込みは6月30日が締め切りです。グループ参加は7月31日が締め切りです。

今回の会場はホールの収容人数が200人とコンパクトな会場です。現地参加の申し込み枠には人数制限があります。現地での出席ご希望の方はお早めのお申し込みをお願いいたします。

*また川崎市の紹介は、YouTubeで「Kawasaki City, Japan」で検索していただくと3分半ほどの紹介動画が見られます。

皆様のご参加をお待ちしています!

(北川 郁子)

関西エスペラント大会(姫路)分科会追加

5月号中綴じの Informilo 改訂版に追加です。
エスペランティスト九条の会

Esperantista Societo por la artikolo 9a

佐藤守男 Sato Morio

6月3日 13:15 ~ 14:45 第4会議室

クイズで知ろう正しい情報「エロシエンコ」

Kvizo Kleriga: Faktoj pri “Eroŝenko”

菊島和子 KIKUSIMA Kazuko

6月4日 9:15 ~ 10:45 和室1

(p.9 参照)



①姫路の大会までもう日がないが準備はいいか？

【訳例 1】 Restas jam malmultaj tagoj ĝis la kongreso de Himeji. Ĉu vi jam preparis? (Haveno)

【訳例 2】 La Kansaja Kongreso de Himezi proksimiĝas. Ĉu vi jam pretas? (yosie)

【訳例 3】 Restantaj tagoj ĝis la kongreso en Himeĵi estas jam malmultaj, kaj ĉu necesaj aferoj por la kongreso estas preparitaj? (Lumo)

「ひめじ」の「じ」ですが、姫路市のサイトや JR 姫路駅でのローマ字表記はヘボン式の *ji* です。国際標準規格 ISO 3602:1989 だと *zi* です。「ローマ字のつづり方」に関する内閣訓令の第 1 表では *zi* ですが、第 2 表の *ji* も使えます。

「日がない」は日数が残っていないという意味です。訳例 1 は *resti* (残っている) と *malmultaj tagoj* (少しの日数) を使っていますが、訳例 2 は *proksimiĝi* (近づく) による簡潔な表現です。訳例 1 や訳例 2 では「ないが」の「が」を省略しています。訳例 1 の *prepari ion* (用意する) は他動詞なので *vin* を追加するか *prepariĝi* にします。

訳例 3 の「姫路」はエスペ란ティスト向けに発音と字形の近い *Himeĵi* です。後ろの文には「大会のために必要な事項」を補足してあります。

②参加申込は済んだが大会前遠足を忘れていた。

【訳例 1】 Mi jam aliĝis al ĝi sed mi forgesis pri antaŭkongresa ekskurso. (CA)

【訳例 2】 Mi jam aliĝis al la kongreso, sed forgesis aliĝi al antaŭkongresa ekskurso. (Lumo)

【訳例 3】 Mi jam aliĝis al ĝi, sed forgesis mendi la antaŭkongresan ekskurson. (yosie)

この「参加申込」は大会への参加なので *aliĝi al* (〜に加入する) が使えるでしょう。大会前遠足は *antaŭkongresa ekskurso* と言えます。

訳例 1 は *ĝi* (それ)、訳例 2 は *la kongreso* を補っています。「済んだが」の「が」については 3 例とも *sed* で表現しています。訳例 2 では *aliĝi* (参加) を忘れていたと言っていますが、訳例 3 では遠足が別料金と考えて *mendi ion* (注文する、申し込む) を忘れていたと言っています。

③姫路城は坂が多いそうだが一度行ってみたい。

【訳例 1】 Mi aŭdis ke estas multaj deklivoj en kastelo Himeji, tamen mi volas viziti tien. (Eiko)

【訳例 2】 Kvankam mi aŭdas, ke multaj deklivoj estas en la Himeji Kastelo, mi volas viziti ĝin unufoje. (CA)

【訳例 3】 Mi aŭdis ke troviĝas multaj deklivoj en la kastelo Himeĵi, sed mi volas unufoje viziti tien. (Lumo)

「姫路城」は *Kastelo Himeji* や、発音を示して *Kastelo Himeĵi* と言えるでしょう。「坂」には *deklivo* (斜面、坂) が使えます。「多いそう」は *aŭdi ion, ke* (〜を聞く) で表現できるでしょう。

「多いそうだが」の「が」について、訳例 1 は後の文の先頭に *tamen* (それでも) を使い、訳例 2 は強い逆接の *kvankam* (〜けれども) を使っています。「坂が多い」のを一応気にしているのでしょう。訳例 3 は *sed* (しかし) を使って対立関係を示すだけにしています。

④能楽の裏話や高砂人形の由来にも興味がある。

【訳例 1】 Mi interesiĝas en rakonto pri internaj aferoj de noa mondo, kaj ankaŭ pri deveno de Takasago-pupoj. (Lumo)

【訳例 2】 Mi interesiĝas ankaŭ pri nepublikaj epizodoj en Noo kaj deveno de Takasago-pupo. (Ivajo)

【訳例 3】 Mi interesiĝas pri rakonto pri noo kaj deveno de la pupoj Takasago. (yosie)

「能楽」は *noo* (能、能楽)、「由来」は *deveno* (出身、由来) が使えるでしょう。「興味がある」は *interesiĝi pri* (興味を持つ) が使えます。*interesi iun* (興味を抱かせる) は人を目的語に取る他動詞なので注意しましょう。

「裏話」は一般には知られていない話、内輪話です。訳例には *nepublika* (不公開の)、*interna* (内部の) や *sekreta* (秘密の) と、*rakonto* (物語)、*epizodo* (挿話)、*historio* (物語) や *anekdoto* (逸話) とを組み合わせた例がありました。

「高砂人形」は尉 (じょう) と姥 (うば) の 2 体の人形です。複数ですが一対 (*paro*) と考えられます。今年の関西エスペラント大会の公開講演ではこの人形の話も出るでしょう。

成績は p.14、新しい課題は p.15

連載：高齢者の…

1) 高齢者の講習は？

佐野 寛 (大阪府)

次のような題名で数回、連載を計画しています。

- 1) 高齢者の講習は？
- 2) 高齢者の役員は？
- 3) 高齢者の輪読会は？
- 4) 高齢者の会話クラスは？

今回は、その1)

高齢者の講習はどうするの？

エスペラント入門講習に若者が来るのは昔の話です。近頃、受験競争に揉まれて育った若者は、勉強することが嫌いではないが、利害得失には敏感です。「この語学の講習でどんな実利が期待できる？」と真っ先に思うらしい。

<エスペラント習得のメリット>

英語なら目先メリットは簡単だ。大学入試に・就職条件に有利という目当てが見える。だから英検1級を自費ででも頑張る人が出てくる。

だが、「エスペラントでは一体何の役に立つ？わけわからん」。実利的な目標を掲げるのは、エスペラント講師といえども首を傾げる。それでも始める動機とは何か？と掘り下げると……。

知的好奇心？知的教養？だが、何か資格は？社会貢献は？その言語の話者の人数は？……。辛うじて「英語学習がつかった」、「英検1級取ったがネイティブに通じなかった」、「英語でやりとりするのは不公平だ」とか、英語への不信が、説得力ある根拠として挙げられる。

とはいえ、いったん講習を始めると、英語が達者な講習生の方がエスペラントの熟達も速い。だから講師もそういう人に将来を期待したりする。ところが利にさとい人ほどエスペラント理念には無関心なことが多く、エスペラント学力がついたところでさっと立ち去ってしまう。ある程度、愚直な講習生の方が、エスペラント理念を体得し、丈夫で長持ちすることもしばしばあります。

<エスペラント理念学習のメリット>

エスペラント陣営としては、早いうちに言語格差や大言語の横暴に気づいてほしい。そして中立で易しいエスペラントが、その解決の最良の手段であることに誇りを持ってほしい。だが、おのれの少数派を自覚するのは、つらいことでもありメリットとは呼びがた

い。だが、生き甲斐を創り出すという意味ではメリットである。ゆえに、エスペラント理念学習によって志(こころざし)を早めに育てるべき(明治維新の志士もどき)。だがそれさえも、容易なことではない。

<高齢者の入門講習>

高齢になるほど、大脳の海馬組織(一時記憶装置)が衰える。忘れやすくなり、新規なデータを学習するのは面倒になる(=暗記力はしだいに衰える)。しかし、理解力や推理力はほぼ変わらず、維持される。エスペラントは英語など自然語に比べると、必須暗記量(例:単語数)は1/10~1/3で済む。だから「最も高齢者学習向きの言語」である。

今から30年前、70歳代の老婦人が講習においでになった。入門教科書を他の講習生と一緒に学習開始。進度が気になり確認すると、うなずいておられたので、ついそのまま進行。しかし数か月後、初等の読み物の輪読に移ったら「どうぞ飛ばしてください、私は聞いてますから」と。その後も、しっかりとストーリーだけを把握し、話題にも参加していた。「エスペラント運動は何よりも楽しみにしています」とも。時折、お茶の会を主宰してエスペランチストたちを接待してくださった。今思えば、語学力は捨てて、理念だけを生き甲斐としてエスペラント会に精勤しておられたのだと思います。彼女は数年後、脳梗塞で亡くなりました。

<高齢者の座標>

高齢になるほど、ひとりずつ異なる個性が鮮明になる。【エスペラントの学力=X、エスペラントの志=Y】とすると、X、Yのいずれか一方に偏って発達するのを避けられない。それを豊かさとして受け入れるエスペラント界の包容力が問われるのではないか。もちろん、XとYがどちらも大きい人間が理想なのですが、幸せな高齢者エスペランチストを創るには、Y型寄りもいいのでは？

Kurantaj Vortoj

超対称性粒子 supersimetria partiklo

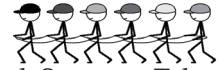
フェルミ粒子(物質) fermiono

ボース粒子(力) bosono

双対性 dualeco



Tram-ludo (電車ごっこ)



poez. INOUE Takesi, muz. NOBUTOKI Kiyosi, trad. SIMATANI Takesi



1) Es-tos kon-du - kis-to vi, la bi - le - tis-to mi!
2) Bo-ne kon-du - ka-das vi. En tra - mo i - ras ni!



Kaj pa - sa - ĝe - roj es - tos kvar a - noj por la tram'
Tra - mo al - ve - nos bal - daŭ al Par - ko U - e - no



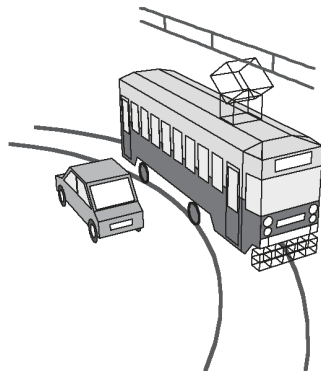
En va - go - non hastu en - ir' Jen ve - tu - ros tram' Tint', tint'!
El va - go - no hastu el - ir' Jen ve - tu - ros tram' Tint', tint'!

電車ごっこ

井上 昶 (1889-1965) 詞

信時 潔 (1887-1965) 曲

- 1) 運転手は君だ 車掌は僕だ
あとの四人が 電車のお客
お乗りはお早く
動きます ちんちん
- 2) 運転手は上手 電車は速い
つぎは上野の公園前だ
お降りはお早く
動きます ちんちん



Tram-ludo

poez. INOUE Takesi, muz. NOBUTOKI Kiyosi

trad. SIMATANI Takesi

- 1) Estos kondukisto vi, la biletisto mi!
Kaj pasaĝeroj estos kvar anoj por la tram'
En vagonon hastu enir'
Jen veturos tram' Tint', tint'!
- 2) Bone kondukadas vi. En tramo iras ni!
Tramo alvenos baldaŭ al Parko Ueno
El vagono hastu elir'
Jen veturos tram' Tint', tint'!

kultura heredaĵo

tradukita al Esperanto

小倉百人一首 Cent Versis Utaon



tradukis SIMATANI Takesi

ありあけの
つれなく見えし
別れより
あかつきばかり
うきものはなし

De la aŭroro
senkora, kiam vi jam
foriris de mi,
matene min turmentas
la rememoro ĉiam!

(30 壬生忠岑 9a jc-10a jc)

(MIBU no Tadamine)

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

45 La Nimfo de la Ponto – Fasi Fime – (16)

源氏物語 第45帖 橋姫 はしひめ

eljapanigis belmonto

Kavoru prenis supon kaj rizon kiel matenmanĝon. Li diris al la Princo, ke hieraŭ estis la libera tago de oficado, sed li devus ofici hodiaŭ, ĉar la oficiala sindeteno laŭ aŭguro finiĝus en la Palaco, kaj li devos ankaŭ konsolviziti la unuan principon de *Rejsejvin* pro ŝia malsano, tiel okupita li estas, kaj ke li revizitos la Princon antaŭ ol disfalo de montaj ruĝaj folioj, post la okupitaj laboroj.

“Sub la honoro de viaj oftaj vizitoj eĉ la ombro de mia montodomo sentiĝas lume ekbrilanta.”

La Oka Princo diris kun ĝojo.

18. *Kavoru* legas la testamenton kaj vizitas la patrinon

Kavoru revenis domen en la Urbo, kaj unuavice observis la sakon. Ĝi estis produktaĵo el Ĥina kepro kun rondaj desegnaĵoj, kaj sur ĝi estis skribita:

DEDIĈE.

Ĝia kolo estis firme nodita, sur kiu estis skribita la signaturo de la *Dajnagono* kiel sigelo. Ĝi aspektis terura por malfermi. En ĝi estis kvin, ses leteroj de malofta respondo de la Tria Principino en diversaj koloroj amlettersimile. Ankaŭ estis liaj skribaĵoj per sia propra mano:

“Mia malsano estas tre grava kaj mi staras ĉe la krizo de mia vivo, kio malfaciligas min skribi eĉ mallongan leteron refoje, sed mi sopiregas vidi vin. Mi aŭdis, ke vi ŝanĝis vian figuron al monaĥino; ĉio estas malĝoja.”

Li skribis tiel sur kvin, ses blanke dikaj ĉiutagaj paperoj en stilo de dispunkte apartigitaj literoj kiel piedsignoj de birdo.

Vi jam iris en novmondon
Sin ŝanĝinte de ĉi-mondo

御粥 (かゆ) 強飯 (こはいひ) などまみりたまふ。昨日は暇日 (いとまび) なりしを、今日は内裏 (うち) の御物忌 (ものいみ) もあきぬらん、院の女一の宮、悩みたまふ御とぶらひに必ず参るべければ、かたがた暇 (いとま) なくはべるを、またこのごろ過ぐして、山の紅葉 (もみち) 散らぬ前 (さき) に参るべきよし聞こえたまふ。

「かく、しばしば立ち寄せたまふ光に、山の蔭も、すこしもの明 (あ) きらむる心地してなん」

など、よろこびきこえたまふ。

18

歸りたまひて、まづこの袋を見たまへば、唐 (から) の浮線綾 (ふせんりょう) を縫ひて、「上」といふ文字を上 (うへ) に書きたり。細き組 (くみ) して口の方 (かた) を結 (ゆ) したるに、かの御名の封 (ふう) つきたり。開 (あ) くるも恐ろしうおぼえたまふ。いろいろの紙にて、たまさかに通ひける御文の返り事、五つ六つぞある。さては、かの御手にて、病は重く限りになりにたるに、またほのかにも聞こえむこと難 (かた) くなりぬるを、ゆかしう思ふことはそひにたり、御かたちも変りておはしますらむが、さまざま悲しきことを、陸奥国紙 (みちのくにがみ) 五六枚に、つぶつぶとあやしき鳥の跡のやうに書いて、

目の前に
この世をそむく君よりも

Mi forpasos sen vi sola
Kun anim' pli disbatite

Kaj ĉe ĝia marĝeno estis skribita per
neordigita maniero en elĉerpita forto:

“Mi ĝoje aŭdis pri la nova ĝermo, pri kies
subteno estas nenio zorgenda.

Mi rigardos tiun filo
Se mi tenos mian vivon
L' estontecon de l' junpino
Sur la roko kaŝplantita”

Sur la noditaĵo estis alskribita:

AL ĈAMBELANINO ĴĴĴ*.

La tuta dosiero fariĝis loĝejo de lepismoj kaj
malnoviĝe mucida, sed la tuĉspuro estis klara,
kvazaŭ skribita ĝuste nun. *Kavoru* vidis la
enhavon tute preciza kaj konkreta. Tio estis la
afero certe kompatinda al ili ambaŭ, se la afero
malkovriĝos publike**.

Kavoru konsideradis pri la afero en sia koro
sola ĉu estis simila ekzemplo en la socio, kaj
perdis kuraĝon viziti la Palacon por ofici,
malgraŭ sia unua volo. Li vizitis la patrinnon
la Trian Princinnon. Sen ajna ĝemo en sia naive
juna figuro ŝi estis recitanta la sutron, kiun ŝi
kaŝis de li kun honto***.

‘Kiel ŝi eksciis, ke mi jam konas la sekreto!’

Do, li enfermis ĉion en si, kaj dronis en
diversaj meditoj. (fino)

よそにわかるる
魂 (たま) ぞかなしき
また、端 (はし) に、

「めづらしく聞きはべる二葉 (ふたば) のほども、
うしろめたう思うたまふる方はなけれど、

命あらば
それとも見まし人しれぬ
岩根にとめし
松の生 (お) ひすゑ

書きさしたるやうにいと乱りがはしうて、「侍従
の君に」と上には書きつけたり。紙魚 (しみ) とい
ふ虫の住み処 (か) になりて、古めきたる黴 (かび)
くささながら、跡は消えず、ただ今書きたらんにも
違 (たが) はぬ言の葉どもの、こまごまとさだかな
るを見たまふに、げに落ち散りたらましよと、うし
ろめたういとほしき事どもなり。

かかる事、世にまたあらむやと、心ひとつにいと
どもの思はしさそひて、内裏へ参らむと思しつるも
出で立たれず。宮の御前 (おまへ) に参りたまへれば、
いと何心もなく、若やかなるさましたまひて、経読
みたまふを、恥ぢらひてもて隠したまへり。何かは、
知りけりとも知られたてまつらむなど、心に籠め
てよろづに思ひぬたまへり。

(終り)

*= *Kojĵu*. Ŝi estis nomata tiel en kelkaj kajeroj. Originallingve “ko” signifas “eta” .

**Laŭ tiama budhisma ideo ne koni sian realan patron estas grava peko.

***Tiam oni kredis, ke legi la sutron skribitan en ĥinaj literoj estas nedece al virino.

第72回 関東エスペラント大会

2023年6月17日(土)～18日(日)

タワーホール船堀(東京都江戸川区)

と ZOOM で。

大会記念品:

“Raportoj el Japanio 26” (堀 泰雄著)

第22回 中国・四国エスペラント大会

2023年10月1日(日) 9時～17時

岡山国際交流会館(岡山駅西口から徒歩7分)

※今回は10月1日(日)のみの日取り。ただし
前日の9月30日(土)に原田文学館(浅口市鴨
方町)への *ekskurso* を、夕方から *bankedo* を
予定。いずれも公式でなく、有志での集まり。

Rakonto pri Veneno kaj Verko

TAKEMORI Hirotosi (Nara)

毒は古来より人類と共にあり、殺人・自殺での使用は、推理小説などにも取り上げられてきた。作品と毒を巡る物語。

Kio estas veneno?

Veneno estas minerala, vegetaĵa aŭ animala



Fig.1 Marko de alta akuta tokseco¹⁾ en GHS²⁾ el vikipedio

substanco aŭ miksaĵo de substancoj, kapabla difekti kaj eĉ mortigi la vivantajn ĉelojn, organojn aŭ vivulojn. Kaj venenoj estas substancoj, kiuj povas damaĝi nian sanon aŭ endanĝerigi nian vivon depende de kiel ili estas uzataj. Ekzemple, kafeino entenata en teo kaj kafo estas ia speco de alkaloido³⁾, kaj ĝi fariĝas veneno kiam ĝi estas ingestita⁴⁾ super certa kvanto. Sed kutime oni ne pensas, ke estas veneno en teo aŭ kafo.

Dum la homa historio, intencita apliko de veneno estis utiligita kiel metodo de murdo, plagokontrolo, memmortigo, kaj ekzekuto.

Makula konio

Makula konio (japane “Doku-ninĵin”) estas unu el la venenaj plantoj de la familio de enanto (japane “Seri”), kaj plurjara herbo uzata kiel kuracherbo, kiu estis uzata por kvietigaj kaj kontraŭkonvulsiaj celoj. En malnova greka kaj mezepoka araba medicino, makula konio estis uzata por trakti diversajn nesolveblajn malsanojn kiel inflama afekcio de la artikoj. Altaj dozoj estas danĝeraj kaj povas kaŭzi spiran aflikton, sekvitan de paralizo, paroldifekto kaj eĉ morto. La planto estis uzita kiam Sokrato⁵⁾ estis ekzekutita.

“Sokrato paŝadis, ĝis kiam li sentis siajn kruojn pezaj, kiel li diris, kaj li kuŝiĝis dorse, ĉar tiel konsilis lin kuŝiĝi la respondulo.



Fig.2 Makula konio el vikipedio

Sokrato respondis, ke nenion li sentas.

Poste, tiu homo puŝis lian kruron kaj palpante ĉiam pli alte, montradis al ni ke Sokrato malvarmiĝis kaj rigidiĝis.

Kaj la homo tuŝadis lin kaj diris, ke kiam la malvarmiĝo atingos la koron, Sokrato mortos.” El “FEDONO⁶⁾: Tradukita en Esperanto de Spiros Sarafian, Ateno 2006”

- 1) Grado de toksopovo de substanco. Tokso estas tipo de veneno, konsistanta el difinita kemia substanco.
- 2) Globe Harmoniigita Sistemo: Ĝi estas sistemo establita de Unuiĝintaj Nacioj, kiu difinas klasifikajn kriteriojn kaj etikedajn metodojn por la danĝeroj de kemiaĵoj (substancoj kaj miksaĵoj).
- 3) Nitrogenhava, organika substanco, troviĝanta en plantsukoj, ĝenerale toksa, kaj uzata en farmacio
- 4) Ingesti: Enigi en la stomakon per la buŝo
Intencita apliko de veneno
- 5) Sokrato estis klasika helena filozofo kiu estas konsiderata unu el ĉefaj fondintoj de okcidenta filozofio.
- 6) La subtitolo estas “Pri la senmorteco de la animo”. Tiu ĉi verko estis metita en la tago de mortopuno de Sokrato, kaj estas dialogo en kiu aperas unuafoje la grava teorio de ideoj de Platono, kiu estis tre grava greka filozofo, fondinto de platonismo, kaj estis la plej fama sekvinto de Sokrato.

Samtempe la homo, kiu donis al li venenon, tuŝante lin de tempo al tempo, ekzamenis liajn piedojn kaj kruojn, kaj poste, forte puŝante lian piedon, demandis lin ĉu li sentas ion.

第71回関西大会分科会

クイズで知ろう正しい情報「エロシェンコ」

菊島 和子

大正期に来日して、童話作品などを「日本語で発表」したロシアのエスペランティストで盲人のエロシェンコ (1890-1952)。著作権保護期間が終了して以来、いろいろな出版物が出回っています。

他方、エロシェンコとエスペラント語とがしっかり結びいているため、エスペラント界から出るエロシェンコ関係の情報は「正確な情報」と受け取られてしまいます。ところが、エスペラント語関係組織の出版物にでさえ、間違いが山盛りなのです。

とくに問題なのは、一般社会が知っている歴史上の事実に関わる間違い。たとえば、「日本入国後の逃亡中に中村屋にかくまわれていたインド独立運動の志士は、スバース・チャンドラ・ボース (Subhas Chandra Bose 1897-1945 インド独立連盟第2代表)」という根強い誤情報。中村屋のボースは別人の「ラス・ビハリ・ボース (Rash Bihari Bose

1886-1944 インド独立連盟初代表)」。中村屋のホームページや一般の人名事典などを見ればすぐわかることなのに…… これでは「エスペランティスト=嘘つき」と見られても当然です。

そこで、昨2022年11月、山形市での第62回東北エスペラント大会で、「Klerigu per KVIZO : pri Vasilij EROŠENKO クイズで知ろう正しい情報：エロシェンコ」をやってみました。その中で、ある基本的な問いについて、3つの答えを提示したところ、出席者約30人のほぼ全員が、間違った答えを選んだのです。どこからそのような誤情報を得たのでしょうか。どの問いについても、どれが正解かを紹介するだけでなく、なぜ・どう間違いなのか、裏付け情報も示して、解説しました。

今回はこの「エロシェンコ・クイズ」の第2部。

クイズを楽しんで、「エロシェンコについて、自信を持って発信できるエスペランティスト」になってください。

なお、この分科会は6月4日(日)9時15分から10時45分までです。



大規模言語モデル ChatGPT

とエスペラント

Kelonio

人工知能は過去何度も騒がれて、そのたびに期待を裏切ってきました。しかし今、ChatGPTを先駆けに、大規模言語モデルという種類の人工知能が世界で話題になっています。

ChatGPTは事実と異なることを、いかにも本当らしく出力することがあるが、信用せずに確認しながら使えば役に立つ場面があります。さらに多国語対応で、日本語やエスペラントでも使えます。

ChatGPT for Google、ChatGPT Writer や Monica など、ChatGPTをブラウザに組み込む「拡張機能」というものがあります。これもエスペラントで話しかけるとエスペラントで答えてくれます。文法は正しいですし、周知の話題についてなら回答内容も正確です。

Crome ブラウザに組み込まれた Monica に質問：

Kiu estas la ĉefministro de Japanio?

La Movado 868

回答:La nuntempa ĉefministro de Japanio estas Fumio Kishida.

Microsoft Bing (Microsoft Edge ブラウザに組み込み済み)にも聞いてみました。

質問:Kiu estas la ĉefministro de Japanio?

回答:La ĉefministro de Japanio estas la registarestro de Japanio kaj la ĉefo de la ministraro^{*1}. La nuna ĉefministro estas Fumio Kiŝida, kiu prenis la postenon la 4-an de oktobro 2021^{*2}. Li estas la 100-a ĉefministro de Japanio kaj la prezidanto de la Liberala Demokrata Partio^{*2}.

Kiu estas via intereso pri Japanio? Ĉu vi volas viziti Japanion aŭ lerni pli pri ĝia kulturo?

(*1、*2は根拠となるページへのリンク)

後を追う Google の大規模言語モデル「Bard」は今のところ英語版のみで、日本語にも対応していません。でも「Google 翻訳」を送り出した Google なので、そんなに時をかけずにエスペラントを含めて多国語対応するものと期待しています。

Songoj dum Dek Noktoj (6)

NATUME Sôseki, trad. OKI Keimei

La tria nokto (daŭrigita)

“Ne hezitu,” li refoje malfermis la buŝon kaj diris. Mi malgraŭvole ekpaŝis en la direkto al la arbaro. Pensante, ke li scias ĉion ajn malgraŭ ke li estas blinda, mi iris sur la vojo sen flankaj vojoj kaj alproksimiĝis al la arbaro. Tiam li sur-mia-dorse diris: “Estas ja maloportune esti blinda. Tio estas malbona.”

“Tial mi portas vin sur mia dorso. Do, ne zorgu!”

“Mi dankas vin pro tio ke vi surdorse portas min, sed mi sentas malagrablecon pri moko de homoj kontraŭ mi, kaj plie pri tio ke eĉ mia patro mokas min.”

Mi ial havis malagrablan senton, kaj rapidis al la arbaro, kun la decido forlasi lin.

“Vi komprenos tion post iom da paŝado. — Ĝuste en ĉi tia vespero,” li sur-mia-dorse diris kvazaŭ al si.

“Pri kio vi parolas?” mi demandis per strida voĉo.

La infano kvazaŭ moke respondis:

“Pri kio? vi certe scias.”

En tiu momento mi ial eksentis, ke mi scias tion. Tamen neklare, sed mi kredis ke tio eble okazis same en ĉi tia vespero, kaj ke la afero klariĝos post ioma paŝado. En mia koro nebule kreskis tia penso: “Se mi rememoros tion, estos malbone; tial mi frue forlasu lin ie, dum mi ne rememoros tion, por ke mi devu esti trankvila.” Pli kaj pli mi rapidigis mian paŝritmon.

Pluvadis jam de antaŭe. Iom post iom mallumiĝis la vojo, dum mi paŝis sur ĝi. Preskaŭ absorbite mi paŝis. Sed algluiĝis malgranda infanaĉo al mia dorso. Kiel spegulo, li reflektis ĉiujn faktojn pri mi en estinteco, en estanteco kaj en estonteco sen ia manko. Plie, li estas mia infano, kaj blinda. Mi jam ne povis elteni suferon pro tio.

2023.06

夢十夜 (6)

夏目 漱石

第三夜 (承前)

「遠慮しないでもいい」と小僧がまた云った。自分は仕方なしに森の方へ歩き出した。腹の中では、よく盲目(めくら)のくせに何でも知ってるなど考えながら一筋道を森へ近づいてくると、背中で、「どうも盲目は不自由でいけないね」と云った。

「だから負(おぶ)ってやるからいいじゃないか」

「負ぶって貰(もら)ってすまないが、どうも人に馬鹿にされていけない。親にまで馬鹿にされるからいけない」

何だか厭(いや)になった。早く森へ行って捨ててしまおうと思って急いだ。

「もう少し行くと解る。——ちょうどこんな晩だったな」と背中で独言(ひとりごと)のように云っている。

「何が」と際(きわ)どい声を出して聞いた。

「何がって、知ってるじゃないか」と子供は嘲(あざ)けるように答えた。すると何だか知ってるような気がし出した。けれども判然(はっきり)とは分らない。ただこんな晩であったように思える。そうしてもう少し行けば分るように思える。分っては大変だから、分らないうちに早く捨ててしまって、安心しなくってはならないように思える。自分はますます足を早めた。

雨はさっきから降っている。路はだんだん暗くなる。ほとんど夢中である。ただ背中に小さい小僧がくっついていて、その小僧が自分の過去、現在、未来をことごとく照して、寸分の事実も洩(も)らさない鏡のように光っている。しかもそれが自分の子である。そうして盲目である。自分はたまらなくなった。

“Ĉi tiu loko, ĉi tiu loko. Ĝuste ĉe la radiko de la kriptomerio.”

Klare aŭdiĝis lia voĉo en la pluvado. Mi haltis senkonscie. Ni jam estis en la arbaro, sed mi ne sciis, de kiam. Nigraĵo staranta 1.8 metrojn antaŭ mi certe estis kriptomerio, mi vidis, kiel li diris.

“Patro, vi certe faris tion ĉe ĝia radiko. Ĉu vi rememoris tion?”

“Jes, mi rememoris,” senintence mi respondis.

“Estis en la kvina jaro de Bunka⁵⁾, la jaro de drako⁶⁾, ĉu ne?”

Liaj tiuj vortoj igis min kredi, ke tio okazis en la kvina jaro de Bunka, la jaro de drako.

“Estis ĝuste antaŭ cent jaroj, ke vi mortigis min.”

Apenaŭ mi aŭdis tiujn vortojn, mi abrupte konsciiĝis pri tio, ke mi mortigis unu blindulon ĉe ĉi tiu radiko en tia malluma vespero antaŭ cent jaroj, en la kvina jaro de Bunka, la jaro de drako. En la momento, kiam mi unuafoje rimarkis ke mi estas murdinto, la infano sur mia dorso subite peziĝis kiel ŝtona Ksitigarbo⁷⁾.

Rimarkoj (La tria nokto):

- 5) la kvina jaro de Bunka: Unu el la nomoj de japana erao en la periodo Edo(1603-1868). Komenciĝis en la jaro 1804 finiĝis en la jaro 1818.
- 6) la jaro de drako: Unu el dekdu animalaj jaroj kiel unu ciklo. Tiu sistemo estis elpensita en malnova tempo en Ĉinio kaj venis al Japanio. Dekdu animaloj estas: rato, bovo, tigo, leporo, drako, serpento, ĉevalo, ŝafo, simio, koko, hundo kaj apro. Tiuj animaloj ne nur estis aplikitaj por montri jarojn, sed ankaŭ estis uzata por montri horon, direkton ktp. Eĉ nuntempe oni ankoraŭ uzas tiun sistemon pri jaro kaj aĝo sed neoficiale.
- 7) ŝtona Ksitigarbo: Ksitigarbo estas unu el bodisatvoj en budhismo. Ŝtona Ksitigarbo troviĝas en diversaj lokoj en Japanio kaj adorata kiel gardanto por infanoj.

「ここだ、ここだ。ちょうどその杉の根の処だ」

雨の中で小僧の声は判然聞えた。自分は覚えがなかった。いつしか森の中へ這入(はい)っていた。一間(いっけん)ばかり先にある黒いものはたしかに小僧の云う通り杉の木と見えた。

「御父(おとつ)さん、その杉の根の処だったね」

「うん、そうだ」と思わず答えてしまった。

「文化五年辰年(たつとし)だろう」

なるほど文化五年辰年らしく思われた。

「御前がおれを殺したのは今からちょうど百年前だね」

自分はこの言葉を聞かぬや否や、今から百年前文化五年の辰年のこんな闇の晩に、この杉の根で、一人の盲目を殺したと云う自覚が、忽然(こつぜん)として頭の中に起った。おれは人殺(ひとごろし)であったんだなと始めて気がついた途端(とたん)に、背の子が急に石地藏のように重くなった。

第71回関西エスペラント大会

2023年6月3日(土)～4日(日)

イーグレひめじ

第110回日本エスペラント大会

2023年10月21日(土)22日(日)

川崎市総合自治会館ほか

EPA の国際合宿

第 31 回国際エスペラント合宿（エスペラント普及会（EPA）、ソウルエスペラント文化院、大本筑紫本苑共催）が 4 月 23・24 日、大本筑紫本苑（福岡県北九州市）で開催され、国内参加者 23 人、韓国から 10 人（そのうち中国人 1 人）、講師 5 人（日本 3 人、韓国 2 人）、係員 10 人の 48 人が参加した。国内参加者のうち約半数が、10 代、20 代の大本青年だった。

23 日午後 3 時から開講式が行われ、岩河信裕大本筑紫本苑長の歓迎あいさつ、イー・チュンギ ソウルエスペラント文化院長、吾郷孝志 EPA 理事長のあいさつ（代読）があった。その後、EPA 創立 100 周年記念行事「大本エスペラント歌祭」の紹介が行われた。

ついで、各クラスに分かれて学習。入門：武藤たつこ、初級：堀孝三、初級会話：キム・ソヌク（韓国）、中級：奥脇俊臣、中級会話：イー・チュンギ（韓国）の五つのクラスが行われた。夜間には、懇親会が行われ、2 分ごとに相手を変えてエスペラントで話す会話の時間、国際合宿の歴史写真の紹介、韓国からの参加者の歌などが行われた。

23 日、午前 9 時、記念撮影。その後、学習再開。午後 2 時からはエスペラント献詠歌作りならびに EPA 認定試験、3 時からは閉講式が行われた。

その後、希望者は門司港観光ならびに夕食会に参加し、日韓のエスペランティストが交流を深めた。

〔←奥脇 俊臣〕

京都エスペラント会が観桜祭に参加

新型コロナのため休止していた京都府・府庁旧本館活用ネット主催の観桜祭が三年ぶりに開催され、京都エスペラント会が参加した。三週間の日程のうち、京都エスペラント会は 4 月 8 日（土）に出演。京都府庁の旧議場で 3 時間にわたって「エスペラントって何？」をテーマに訪問者を楽しませた。

シンガーソングライター野田淳子さんが、「すべてが贈りもの」「大きなうた」などを日本語とエスペラントで聞かせたあと、西本祐子さんが川口コウスケさんのギターに乗せて絵本の読み聞かせ。富田成美さんが「宮沢賢治のエスペラント短歌」についてミニ講義、森川和徳さんがエスペラントの紹介、西田千津さんが「エスペランティスト長谷川テル」をテーマに講演。最後に森信秀さん・久美子さん夫妻がアルトサクソと電子ピアノで「このすばらしき世界」などの演奏を聴かせた。最後に会場の全員で“Lingvo por ni”を歌って終了。全体を司会したのはエスペラント歴一年の会員伊藤舞花さん。

聴衆は約 50 人で、そのうち 9 人がエスペランティストだった。（写真は p.15）〔←会報 Leterkolombo〕



「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式

2023年4月30日(日)13時から奈良市般若寺境内にて、奈良・長谷川テル顕彰の会が主催の「長谷川テル訪問記念の碑」除幕式が開催された。参加者は、約130人、うちエスペ란ティスト16人であった。顕彰の会からの挨拶に続き、土地を提供された般若寺住職、碑を作製された彫刻家など関係者による除幕、「希望の鳩 ヴェルダ・マーヨ 長谷川テルの歌」の合唱、関係者からのあいさつ、メッセージの紹介、感謝状贈呈、来賓紹介があり、1時間で閉幕した。カナダからテルさんの娘さんの長谷川暁子さんが参加し、エスペ란ティストからの多くの支援があったことは特筆すべきことだ。

記念碑には中国語、エスペ란ト、日本語で説明板が設置されており、エスペ란ト文は横浜エスペ란ト会の土居智江子さんによる。最も有名なテルの言葉“Kune kun la kamaradoj, mi per plena voĉo alvokas japanajn fratojn: Ne misverŝu la sangon, via malamiko ne estas ĉi tie trans la maro!”と共に彼女の略歴が記載されている。元UEA会長のRenato Corsetti、中国エスペ란ト連盟からメッセージが寄せられた。後者は、中国重慶市在住のエスペ란ティストから寄せられたもので、急遽除幕式参加予定であったが、ビザの関係で式には間に合わず、メッセージが参加者に配布された。

中国のエスペ란ティストと顕彰の会とのやり取りを日本語とエスペ란ト間での翻訳で支援し、来日の実現に貢献したとして、奈良エスペ란ト会の竹森浩俊さんに感謝状が贈られた。 [←竹森 浩俊] (写真は p.15)

神戸エスペ란ト会の総会

神戸エスペ란ト会では4月22日に年次総会を行いました。会場となる神戸市青少年会館に出席した者5人、スカイプでオンライン出席した者1人、委任状・書面表決者6人で、活動報告、活動方針、決算報告、予算案はすべて成立しました。また、オンライン出席者や書面評決者を出席者にカウントするという規約改正が承認されました。役員はすべて留任ですが、会の所在地は「中道民広方」から「木元靖浩方」に変更しました。

森下綱子会員作成の、エスペ란ト宣伝チラシに代わる、名刺サイズのエスペ란ト宣伝カード(QRコード入り)が出席者に配られました。

[←玉越 邦彦]

Kunsido de Verda Monteto en la urbo Wakayama post longa tempo

Dank' al la alvoko de la prezidanto, s-ro HUKUMOTO Hirotugu, feliĉe okazis kunsido por Verda Monteto post tri jaroj, la 28an de aprilo, 2023. La loko estis en la kafejo “Plaza Hope” situanta en la centro de la urbo Wakayama, de la 14a ĝis la 16a horo. Ĉar la kunsidon ni ne havis dum longa tempo pro kovima epidemio, al mi mienis la ĉeestantoj alpaŝantaj al la pordo de la kafejo kvazaŭ forvagoj al la kunsido. Tuj antaŭ la pordo ili haltigas siajn piedojn, certigas la lokon rigardante tien aŭ tien, eniras paŝon post paŝo kaj trovis min atendanta sidante en taŭga loko. Ili ekesprimas ĝojon al mi, kvazaŭ ili renkontis kun amato fora. Tuj poste ankaŭ aliaj ĉeestantoj aperis unu post alia antaŭ miaj okuloj. Ili ĝojis kaj certigas unu al la aliaj bonfarton.

La ĉeestantoj estis entute kvar: sinjorinoj Nisihara Mikako, Uenaka Akiko kaj sinjoroj Hukumoto kaj mi, Egawa. Iliaj mienoj estis senŝanĝaj kiel la lasta renkonto, sed iom kun blankaj haroj. Nia konversacio amike profundigis kun la temoj, “ChatGPT kaj Esperanto” sub la gvido de s-ro Hukumoto, “Demenco kaj Esperanto” laŭ ĉiu opinio. Ili ŝajnis timi senilan demencon, kaj ni diskutis, ĉu la lernado de Esperanto helpus por ne demenciĝi. La renkonto post longa tempo ŝajnas pli fortigi amikecon. Ni reciprokis la neceson fizike videblan, precipe al nia Esperantujo, kio pli tiras nin en la mondon de Esperanto kiel homon al homo. Ni ĝisrevidis atendante la venontan kunsidon.

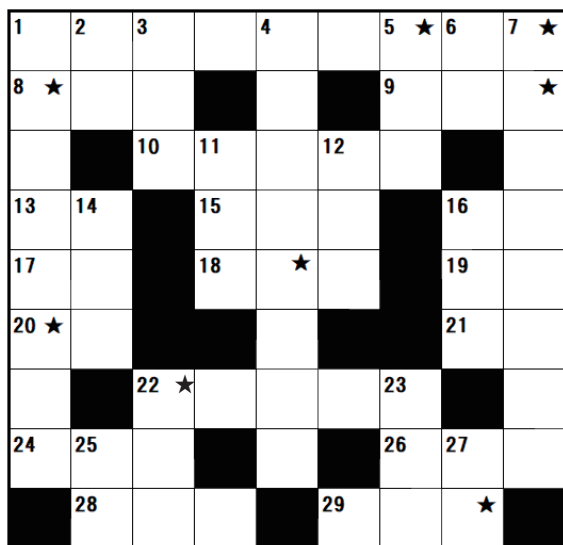
[raportas EGAWA Harukuni]

Vortkruca enigmo

TAHIRA Minoru

Vicigu adekvate 7 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun stelo. Tiam vi akiros vorton kun la signifo de kuracisto pri dentoj. Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de junio, paperpoŝte al la ofiejo de KLEG, aŭ retpoŝte al <lamovado@gmail.com>

Rimarko: vorto kun (x) ne portas finaĵojn.



Horizontale: 1. ~o = fremdulo (x) 8. ~j gepatroj, ~j infanoj (x) 9. Verŝu olivan ~on super la salato. (x) 10. Balenoj estas ~oj, ne fiŝoj. (x) 13. Ĉu ~ povas sidi ĉi tie? (x) 15. La ĉefurbo de Italio.(x) 16. la hom~o (x) 17. ~, vi volas esti romanverkisto? (x) 18. Verko ne longa kaj libere esprimanta pensojn. (x) 19. Konduku nin al la ~o! (x) 20. Kafo estas pli bona ~ teo. (x) 21. Mi bezonas tranĉ~on kaj forkon por manĝi bifstekon. (x) 22. ~u panon en la supo. (x) 24. ~a, ~a ĉielo (x) 26. Katido, ne gratu per viaj ~oj! (x) 28. ~o estas bona por sano. (x) 29. Mi scias ~ bone ol vi. (x)

Vertikale: 1. La 6-an de aŭgusto 1945, 8:15 a.t.m., ~o estis ĵetita sur Hiroŝimon. (x) 2. Ĉu via bebo estas ~ aŭ ŝi? (x) 3. ~ mi estis juna, sed nun maljuna. (x) 4. Ni malsategis kaj ni

estis en malhela ~o. (x) 5. ~o = kriminala intenco (x) 6. Ni iru ~ la akvario! (x) 7. Aperis ~o de bedaŭrata aktorino. (x) 11. Parto de tersurfaco. (x) 12. Azia frukto simila al pruno . (x) 14. Ŝi aspektas ~ malĝoja. (x) 16. Japanio apartenas al orienta ~o. (x) 22. ~ venu al supera oficiro. (x) 23. malgranda isekto.(x) 25. ~ Espero (x) 27. ~ kantu nian himnon. (x)

La solvo al la aprila enigmo: OMBRELO

La ĝustan solvon donis 13 legantoj:

CA

Sayuri

TADA

濱田 國貞

松川 まきこ

島津 泰子

本田 照美

Grebo

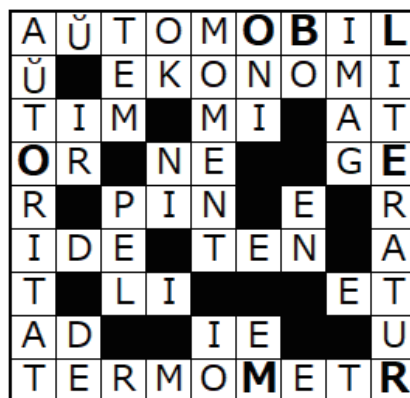
にし のりこ

平井 倭佐子

水渡 篤子

武藤 たつこ

Kacu



Korekto pri la maja enigmo

“Vicigu adekvate 7 literojn” estis indiko en la maja numero, sed “7” devis esti “6”.

Pardonon!

楽しい作文教室 (142) 成績

12人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね : yosie, Lumo, Ivajo, Haveno(③ trovoigas), Celejo(③ kastero), ikona(① pul ② ekskruso), CA。

良いね : Drako(② 対格), 組曲(② 対格 ③ foie), Eiko, はるちゃん(① kongleso ② ekuskurso ③ visiti ④ inter), Jasuko(③ dekrivoj)。

Mikspoto (当欄は敬称略)

★5月1日付『奈良新聞』に「反戦の思い 受け継いで 長谷川テル訪問記念の碑除幕式」の見出しで、写真入り三段の記事。「奈良女子大学在学中に国際補助語のエスペラントを学び、反戦を訴え続けた活動家、長谷川テル(1912-1947)を顕彰しようと、奈良・長谷川テル顕彰の会は30日、奈良市若寺町の般若寺で、「訪問記念の碑」の除幕式を行った」と書かれている。 [←竹森 浩俊]



←長谷川テル訪問記念碑 (記事は p.13)

★5月2日付『しんぶん赤旗』にも長谷川テル訪問記念の碑除幕式の記事。テルについて「日中戦争のさ中、ラジオ放送で反戦を訴え、南京大虐殺などの真実をエスペラント語で全世界に広めました」の記述がある。 [←竹森 浩俊]

★月刊誌『アナキズム』2022年12月号に黒薔薇アリザが「韓国エスペラント滞在記」を書いている。韓国の釜山で開催された「第一回国際仏教大会」と「第10回アジア・オセアニア大会」の参加体験が詳しく書かれている。 [←福島エスペラント会]



↑京都の観桜祭 (記事は p.12)

楽しい作文教室 8月号課題 (6月20日締切)

- ①どちらにも利点と欠点がある。
- ②意見が対立し村を二分する論争になった。
- ③どちらも譲らずなかなか決着がつかない。
- ④多数派は編入の採決を強行しようとした。

(ヒント) 利点 *avantaĝo*、論争 *disputo*、konflikto、koncedi を調べましょう。

日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811

塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp

(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

KLEG

事務局だより

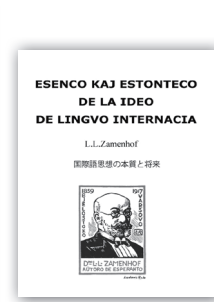
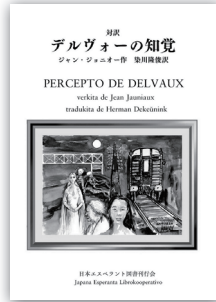
★第71回関西エスペラント大会は6月3～4日にイーグレひめじ(姫路国際交流センター)で開催されます。
★その関西大会には、例年どおり KLEG 書店を開設します。約1000点の書籍やCD、DVDを直接手にとって、しかも5%引きで購入できるチャンスです。また、大会期間中一部の本を値下げ販売する予定です。是非お買い求めください。

KLEG後援会へのご寄付

(2023年4月、敬称略)

木元 靖浩	5,000円
中道 民広	5,000円
匿名	5,000円
秋吉 任子	2,000円
匿名	1,040円

ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

- デルヴォーの知覚** 500円
 ポール・デルヴォーはシュールレアリスムの画家。その絵画をテーマとするベルギーの作家ジャン・ジョニオーの短編をエス日対訳で。日本エスペラント図書刊行会発行。A5判、23p。
- Amo, tuso kaj forpaso** 1400円
 コロナ禍で生きる人びとの姿を描く短編小説集。多文化小説コンクールの成果。間宮緑の Antaŭ la truo de kuniklo を収録。A5判、113p。
- Ni ĉiuj estas malsamaj** 1200円
 一人ひとりが異なるわたしたち、認めあい多様性を尊重することの大切さを説く絵本。Tracey Turner 文、Asa Gillard 絵。A4 変形判、48p。

★ 学び、深めるエスペラント ★

- エスペラント 日本語を話すあなたに** 880円
 藤巻謙一著。日本語と比較しながらエスペラントを概観する。新しい視点で学ぶエスペラント。
- エスペラント中級独習** 2200円
 藤巻謙一著。通信講座指導の成果を活かした練習メニュー満載。朗読CD (MP3形式) 付き。
- エスペラント文法の散歩道** 1000円
 「単数か複数か」「いろいろな de」「la の用法」など文法知識の整理と活用に(改訂新版)。
- エスペラント俳句の作り方** 500円
 広高正昭著。エスペラント俳句の指南書。秀句鑑賞、自作百句を併載。季語索引付き。

★ ザメンホフに親しむ ★

- Ekzercoj de Zamenhof** 300円
 「エスペラント基本文例集」。ザメンホフの「Ekzercoj」と「La Feino」を初心者のために再編集。
- Esenco kaj estonteco de la ideo de lingvo internacia** 600円
 ザメンホフによるエスペラントの原点を示す論文。
- Fundamenta krestomatio** 1300円
 ザメンホフ編集の文集 (Waringhien 校訂)。
- Zamenhof en Varsovio** 1400円
 R. Dobrzynski 著。ワルシャワに生きたザメンホフとその家族の足跡をたどる。

★ 再入荷 ★

- Ĉinio, Koreio, Japanio** 4100円
English-Esperanto-English Dictionary 4700円

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



- ★ belmonto さんの源氏物語「橋姫」が終了。次は少し話がとんで「夢の浮橋」を掲載する予定です。
- ★ 佐野寛さんの「高齢者は…」は全部で4回の連載になります。(宮本 義人)

編集部宛連絡・投稿は <lamovado@gmail.com> へ

発行所：ラ・モバード社 編集：相川 節子 発行人：染川 隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
 電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
 振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
 九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352
 中国・四国支局：中国・四国エスペラント連盟内 763-0063 香川県丸亀市新浜町 2-4-18 小阪清行方 電話 (0877) 22-4771